

令和2年度人権に関するポスターコンクール審査講評

各部門別審査講評

小学校低学年の作品

小学校低学年の部では、友達と一緒に仲良く遊んでいる様子や、笑顔の家族の様子、人権の花である「ひまわり」と人々を関係付けて描いた作品など、自分の身近にある楽しい様子を題材に選んだ作品が多く見られました。のびのびとした線描と明るい色彩が印象に残りました。

小学校中学年の作品

小学校中学年の部では、「みんな違ってみんないい」ことを認め合う大切さを主題とした作品が多く見られました。友達と仲良く過ごしている作品や、「ひまわり」の花を効果的に用いて思いやりや優しさを表現した作品などが、個性的な線描や重なりによる遠近法的表現、中学年らしい混色や重色で表現されており、工夫を凝らした作品が多く見られました。

小学校高学年の作品

小学校高学年の部では、世界へと広がる意識の中、一人一人の個性を認め合う大切さや、友達を支えることの大切さなどを主題として、どのように表現するかをよく考えて表現された作品が多く見られました。描く視点を変えたり、図案化したり、背景を工夫したりして、アイデアあふれる画面構成で表現されていました。また、全体の色合いを考えた彩色の工夫がなされており、丁寧に表現されていました。

中学校の作品

中学校の部では、表現したい主題を効果的に伝えるために、アイデアを練り、独自のイメージを広げ、画面構成を工夫した作品が数多く見られました。新型コロナウイルスの感染による差別が生まれないことを願った作品や、SNSによる心理的な圧迫など、世相を反映した作品も多く、中学生の意識の高さや発想の豊かさを感じました。制作に当たっては、単純化や強調、雰囲気をもたせた配色の工夫や訴えかける言葉の工夫などから、見る側に考えさせる作品が多く見られました。

高等学校の作品

高等学校の部では、差別のない明るい社会の実現、その人の個性や素晴らしさの尊重、また、助け合うことや考えることの大切さなどを主題とした作品が多く見られました。今年は特にLGBTをテーマにした作品が多く見られ、生徒の中でも意識が高まっていることを感じました。ICTを用いた効果的な表現や、アニメ風の表現など様々な表現技法、発想が見られ、豊かな感性と技術の高さを感じました。

特別支援学校の作品

特別支援学校の部では、自分の思いや願いを生き生きと表した線描と、効果的な彩色で描かれている作品が多く見られました。笑顔で表現された家族、友達などの素直な表現により、見る側を優しい気持ちにさせてくれる作品ばかりでした。

総評

全ての部を通して、どの作品にも、「みんなと仲良くしたい。」「人権を大切にしたい。」という思いが込められており、児童生徒の皆さんが表現する中で、人権について深く考えることができたことに大きな意義を感じます。